

● シリーズ 私の見た日本 Vol.224

日本で感じた穏やかな時間と心

Davide Scaglia (ダヴィデ スカグリア)

イタリア、ミラノ生まれ。これまでイタリア、スイス、クロアチア、イギリス、ドイツ、日本など世界各国での暮らしを経験。2016年～2019年イギリスのケント大学卒業。2019年～2021年、ドイツのanOther Architectおよびgmp Architektenにて勤務。2021年～2023年イタリアのミラノ工科大学大学院修了。2022年～2023年交換留学にて日本の大同大学に在籍



私は人生の多くを、様々な国で過ごしてきました。そこでの楽しみのひとつは、それぞれの場所で、新しい文化、考え方、暮らし方、そして異なる建築様式を体験することです。私が在籍するミラノ工科大学から交換留学の機会を得たとき、滞在先の第一志望を日本にしました。私は幼い頃から、日本の建築、デザイン、公園の静謐さや清潔さ、そして美しい自然に強い憧れを抱いてきました。本や映画、専門誌、様々な記事を通じて、私は日本という一見牧歌的な国の描写に没頭していたのです。日本に留学できるという連絡を受け取ったときの興奮は、それまで経験したことのないものでした。事実、日本での生活は、私の人生において最も刺激的で充実した、そして楽しい年月のひとつとなりました。

日本に到着して最初に私の心をとらえたことは、コミュニケーションを通して見られる日本人の礼儀正しさ、穏やかさ、そして安心感でした。私はその時、スイスでの生活を思い出しており、人々が互いに気遣い、自分たちの街を大切にしようとする姿勢にとっても強い感銘を受けたことが印象に残っています。

東京に降り立った際は、都市の広さと羽田空港の人の出入りの多さから、もっと混沌としたイメージを持っていましたが、同時に穏やかな雰囲気も感じ、この時「自分の居場所を見つけた」という喜びに包まれたような気がしました。

その後、大同大学で学ぶため、名古屋に移動しました。名古屋は東京より小さな都市ですが、様々な場所でナイトライフが繰り広げられ、人々の笑い声が響き、食べ物の良い香りが漂い、非常にエキサイティングな街であることがすぐに分かりました。授業が始まるまでの最初の数週間は、自由な時間を有効に使おうと、街の探索に時間を費やしました。中でも、熱田神宮を初めて訪れた時のことをはっきりと覚えています。熱田神宮は、名古屋の主要な神社のひとつであり、その広大さ、美しさ、手入れされた自然に畏敬の念を抱きました。日本の神社や庭園を実際に体験するのは初めてのことであり、多種多様な植生や神社の美しさと簡素さに言葉が失いました。

授業が始まり、同じ授業を受ける大学院生や教授の先生方と顔を合わせました。最初は

言葉の壁がありましたが、誰もが何かしらの方法でコミュニケーションを取ろうと最善を尽くしてくれて、出会ったばかりの人たちに歓迎され、受け入れられ、気遣っていただいているとすぐに感じることができました。一方で、他国での経験とは異なり、深い友好関係を結ぶには時間がかかるということも感じました。これはまた、日本人が敬意と親切心を大切にしているからこそであるとも考えられ、そのような状況は、通行人を観察したり、コンビニに入ったりするだけでも、日々無数の方法で感じ取ることができます。特に、顧客サービスや心遣いのレベルの高さには圧倒されました。

大学教授の先生方は、日本語と英語の両方で授業を行うために、多大な努力を払ってくれました。教授の方々との交流は、イタリアでの経験とは大きく異なるものであり、深く感謝しています。教授の方々は、私の信念を理解し、信頼し、子供としてではなく大人として接してくれていると常に感じました。このことは、「大学に通うことや授業に出席することが楽しい」と感じた点に大きく影響しています。やらなければならないということより

も、いつも刺激的で楽しいと感じることができました。私は、先生方や学生たちと築いてきた関係を大切に、より良い人間へと成長する糧にしたいと考えています。

時間が経つにつれて、私は日本での滞在を延長したいと考えるようになり、ミラノ工科大学に連絡を取って修士課程の最後の1年間を日本で過ごすことができるよう手配していただきました。日本に滞在中、京都をはじめ、大阪、東京、金沢、静岡など、いくつかの都市を訪れることができました。どの都市も、その土地特有の伝統的な食べ物や建築物、観光名所など、非常にユニークな側面を持っていると感じました。一方で、どの都市にも見られる共通項にも気づきました。それは、人々の常に礼儀正しい態度と、リラックスできる美しい場所を生み出すための素晴らしい配慮や工夫の両方であったと考えています。私は、日本各地にある、カウンターに座ってパーティーと会話をする習慣のある、小さくて静かなバーに魅了されました。常に新しい場所を訪れることが私の一番好きな方法なので、旅

行中は常に街を歩き回っていました。そうすることで、地元の人に近い感覚でその場所を体験できるようになり、路地で迷ったり、観光地やモニュメントだけに焦点を当てることなく、街に点在するたくさんの「ディテール」を見ることができるようになったと感じています。その結果、美しい小さな公園やお寺から、あまり知られていないレストランや面白い街並みまで、街の至るところで思いがけない出逢いがたくさんありました。

最終的には、名古屋の緑地帯を対象とした修士論文・設計を日本でまとめることにしました。名古屋の3つの河川をつなぐ環状緑道の構築について論文を書き上げていくうちに、日本の都市への関心はさらに高まりました。修士プロジェクトは、名古屋の街をより持続可能にするとともに河川域の魅力を向上させるため、河川周辺の緑を保護・強化し、新しい建築物や結節点、街路のタイポロジーを導入することを目的としました。名古屋の河川沿いにより多くの観光客や地域住民の関心を集めることが、さらなる都市の魅力の

向上につながると考えたからです。最終的には、愛知県公園緑地課の関係者の皆様の前でプレゼンテーションを行い、実際の視点からの感想やアドバイスを頂けたことは、私自身にとって大きな財産となりました。

この原稿を執筆しながら、日本を去ろうとしている今、私は寂しさを感じずにはいられません。しかし、私の心には、永遠に刻まれた数え切れないほどの楽しい瞬間、思い出、印象があります。そして何より、これが決定的な別れではないことを分かっています。できる限り早く日本に戻って来られるように、大阪や東京のさまざまな建築設計事務所に応募する予定です。この1年を思い返すと、今まで住んだすべての都市や国の中で、日本が一番好きかもしれないと思えてきます。私は、この国が与える興奮、静けさ、喜び、美しさの総体に勝るものはないと感じています。日本は、私が成長し続け、より穏やかで配慮の行き届く人間になることのできる場所だと信じているのです。

(翻訳:大同大学 建築学部建築学科 船橋仁奈)



尾山神社神苑 (石川県金沢市)



兼六園 (石川県金沢市)



浅草寺 (東京都台東区)



金閣寺 (京都市北区)



建仁寺 (京都市東山区)



紅葉が美しい公園 (愛知県豊田市)



名古屋城 (愛知県名古屋市)



鶴舞公園 (愛知県名古屋市)